交通安全対策を求めて

市政モニター ◇アンケートの集計結果／一日交通視察員の意見◇ から

交通事故が"交通戦争"と呼ばれて久しく、なおも激しさを増している今日、いかにしたら事故をなくし人命を守ることができるか、日ごろ市政モニターが考えている対策のあり方、進め方などを知るため、市では市政モニター十人から「一日交通視察員」として市内の交通事情を知ってもらった後、交通安全についての座談会を開きました。また、新旧市政モニターを対象に行なった交通安全のアンケートもこのほどまとまりました。そこでそれらの内容を要約してお伝えします。

交通安全教育が51%
「安全施設の整備」30%　「交通取り締まり」12%

「一日交通視察員」は秋の交通安全運動実施中の去る十月十六日、白山小学校前の通勤通学の実情視察に始まり、次いで市内の事故多発地点と交通安全施設の整備状況視察に引き続き礎小学校の交通安全教室を見学後、座談会に移りました。なお座談会出席者は次の通りです。

一日交通視察員(市政モニター)十人、中島総務部長、若杉中央警察交通課長、井上東警察部長、同部道路課長、小川庶務課副参事。

同座談会も交通安全アンケートもテーマは交通安全対策の三つの基本といわれる①交通安全教育②交通安全施設の整備③交通取り締まりに中心がおかれ進められました。

同アンケートは郵送で行なわれ、送付数八十通で回収率は七十二通の九〇%。回答者の年齢構成及び免許の有無は別表の通りです。

まずはじめに、交通安全の三つの基本対策のうちどれに力を入れてゆくべきか、設問したところ、「交通安全教育」と答えた人は五一・四%「交通安全施設の整備」が三〇・五%「交通取り締まり」一二・八%「無回答」五・七%の順となっています。

そこで、この三つの基本対策の個々の問題について設問が進められており、回答者の半数を占めた交通安全教育については、

☆現在行なわれている学校での交通教室、街頭指導、映写会など安全教育全般にみてどう思いますか。

「不十分」六三・九%で圧倒的に多く「普通」二六・四%「十分である」四・一%「わからない」五・五%となっています。

「不十分」が高い率を示したことは激しさを増す交通事故の一因となっている安全教育の貧困に対しての不満感を示しているものと考えられます。

☆交通安全教育の一つの場である交通安全運動でどのような点に力を入れるべきと思いますか。

「運転者教育」四三・六%「歩行者教育」二〇・三%「PR活動」一一・八%「警察官の指導」などの順で続きますが、これは基本対策の設問で結果が出たように安全教育の重要性という観点から「運転者及び歩行者の教育」二点に力を入れるべきものとして高率になったものと思われます。

☆報道関係で交通安全について報道している場合、読んだり聞いたりしますか。

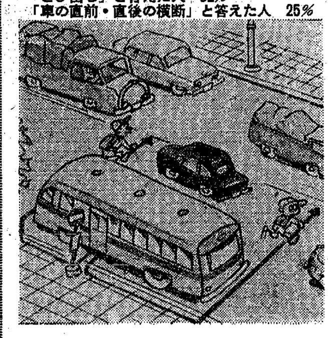
関心度の差はあるにしても回答者全員が読んだり聞いたりする、と答え、特に「関心をもって…」が三四・七%もあり交通安全については非常な関心事となっていることがうかがえ、PR活動を通しての安全教育が必要と考えられます。

また、その内容を自分だけのものにせず家族と話し合うかどうか聞いたところ、「必ず話す」「話し合う」合わせて八三・二%もありました。

☆幼児や低学年の事故に対する原因は何ですか。

「とび出し」と答えた人五二%「車両の直前直後の横断」二四・九%の順で、昨年における子供の交通事故原因の結果と同じであった。そこで、学校における子供の安全教育について聞いたところ、「もっと時間をかけてやるべきだ」五十八人「現状でよい」十五人「教育の場でやるべきでない」一人「わからない」五人となっています。

幼児の事故原因
「とび出し」と答えた人　52%
「車の直前・直後の横断」と答えた人　25%



大人の教育が必要

一方、座談会に出た交通安全教育についての要旨は次の通りです。

一日交通視察員――交通安全を推進するには何んといっても事故に対する一人一人の自覚がたいせつ。従って市民ぐるみの運動に盛り上げ安全教育を進めてゆくべきだ。もちろん教育の場でも時間をかけてやるべきだ。しかしむしろ大人のマナーが悪いので大人を教育する機会が必要だ。そんな意味で、テレビを中心にPR活動するなら、話し合う機会をつくることが交通関係機関の仕事として必要だ。

全世帯にチラシを配り一つのテーマを与え、家庭で話し合いやすいようにすることも一つの方法ではないか。

中島、若杉、小川――学校での安全教育は時間が少ないようですが、今後教育委員会と話し合ってゆきます。

事故防止には皆さんの協力が必要であり、各地区の安全協会や母の会などを通じ各家庭で話し合ってもらうように基本計画を立て進めています。

交通を止めることは産業を止めることになります。このような現状の中で、交通安全の対策を講じてゆくのは非常に困難なことですが、交通関係者は真剣に取り組んでゆかなければならないと思っています。

礎小学校の交通教室を見学する視察員

回答者の年齢構成と免許の有無

区分 ＼ 年齢		20台	30台	40台	50台	60台	70台	平均
集計値	男	6人	1人	10人	8人	15人	1人	44齢
	女	9人	14人	6人	2人	0人	0人	
割り合い		20.9%	20.9%	22.2%	13.8%	20.9%	1.3%	
免許の有無	男	4人	0人	4人	1人	1人	0人	
	女	2人	3人	0人	0人	0人	0人	

歩道整備が急務
信号機と街灯も重要

交通安全教育に次いで交通安全施設の整備に移り、まず安全施設の整備状況については「普通」三八%「遅れている」三五・八%「進んでいる」一五%「非常に遅れている」一一・二%「非常に進んでいる」「わからない」がともに〇%でした。

☆施設のうち特に重要だと思うものは何んですか。

「歩道」二九・四%「信号機」二一・八%「歩道橋」一四・四%、次いで「街灯」「ガードレール」「道路標識」「中央分離帯」「その他」の順です。

☆最も整備が遅れているものは何ですか。

「歩道」が最も多く四五・七%「歩道橋」一七・一%「街灯」一四・三%「ガードレール」「中央分離帯」ともに七・一%「信号機」四・三%「道路標識」一・五%「その他」二・九%。

日本では道路を造る場合昔から歩道分まで取るということをしなかったことが裏付けられています。

特に最も重要な歩道が最も遅れている施設として四五%を占めていることは注目すべき点です。

座談会での意見として、

一日交通視察員――歩道、信号機、など交通安全施設の整備によって事故は相当減るものと期待している。それで交通緩和のための港大橋をはじめ橋の増設早期実現や八千代橋と駅を結ぶ路線の新設、笹出線道路の全市舗装、歩道、街灯照明の整備などを要望したい。

阿部――交通網を分散させるために港大橋、関分付近に橋を建設する計画があります。八千代橋から駅まで通ずる路線は都市計画で進められており、春日町線を拡げることになり二年前から着手されていますが、買収など困難な面が多いようです。

歩行者にも――きびしい目
運転者への「罰則の強化」75%

交通取り締まりについては、

☆歩行者の違反についてはどう思いますか。

「きびしく…」五四・三%「罰則の強化を図るべきだ」二五・七%「注意だけでよい」一七%「現状でよい」一・四%となっており、運転者に対しては「罰則の強化……」七五%「もっときびしく…」二〇・八%で、運転車だけでなく歩行者の違反についてもかなりきびしい目を向けています。

これは歩行者の不注意や違反が原因の事故も少なくないことからきびしい取り締まりを要望しているものと考えられます。

座談会での意見としては、

一日交通視察員――運転者は別として、歩行者は規則を知らず無意識で違反する場合が多いのではないか。やはり交通安全教育の徹底が先決だと思う。

取り締まりはたくさんの警官に出てもらいもっときびしくやってほしい。民間の協力を得て取り締まり、指導も考えたらどうか。

交通が激しく、横断など渡れない時がある。歩行者は弱い立ち場にあるのだから、取り締まりによって守ってもらいたい。

若杉――横断などする場合は運転者と歩行者がお互いに合図し合うことがよい。私たちは取り締まり、指導は歩行者保護を重点に行なっています。民間人の交通巡視員制度も来年から実施できる予定です。とにかく皆さんの支持があることを知りました。今後積極的に行なってゆきたいと思います。

この欄の広告の取り扱いは新潟事業センターへ

暖房器とカラーテレビが
安く買える店
新潟ラジオ電器(株)
本　店／西堀前3　(29)2281
駅前店／花園1丁目　(45)8251
万代店／万代5丁目　(44)6351

県下第一の設備と陣容
●普通第1種●普通第2種
●大型第1種●大型特殊
●身体障害者専門教習科
市内・郊外スクールバス運行
公認
新潟県中央自動車学校
新潟駅裏南口通り TEL(47)5201